

熊本県 菊池市 佐々畜産 肥育牛 300頭



佐々隆文さんが、アースジェネターの給与を開始してから10年以上が経ちます。

佐々さんは、肥育農家さんでもあるが、実は、獣医さんでもあり、

牛飼いをしながら、現在は、ルーメン家畜診療所 を開業して、診療も行なっています。

佐々さんと話をすると、“ルーメンコントロール”という言葉が頻繁に出てきます。

改めて、ルーメン（第一胃）の重要性を認識させられます・・・

元来、草食動物の牛に、ある意味、無理をさせて穀物を食べさせているのが肥育の世界。

その中で、ルーメンが安定すれば、牛達のストレスを軽減（病気の予防も）できます。

佐々さんは、アースジェネターの給与により、そういった部分を期待しているようです。

☆肥育牛の導入時（導入してから2ヵ月間）や下痢や血便が多発した際は、倍量給与をしているようです。

給与後の変化に関しては、正直に言ってよく分からない！？ と言っていました、

臭気 と エサの喰い込み に関しては、変わったような気がする ということでした。

佐々さんの話は、とてもシンプルです。

“当たり前のことを当たり前やる” “牛達が食べたい分だけやる”

それを継続していけば、牛は牛なりに育ちますよ・・・ 佐々さんは言います。

とくに、“牛達の観察” “飼槽の掃除、エサ掃き寄せの徹底”
“皮膚病（シラミ・疥癬）の治療”

これだけでもきちんとやってあげると違いますよ、ということも話していました。

これからの目標について聞くと、

職人しか出来ない肥育ではなく、
誰でも出来るような肥育技術の確立および牛飼いだから休み無しで働くのではなく、
スタッフさんを雇用しても成り立つような、肥育のモデル農場をつくることだそうです。

親父がいなくても、親父がいた時よりも元気良く牛達が育つような 佐々畜産 を

スタッフ達と一緒に作っていきたい、ということでした。

☆佐々先生 これからも夜の部！？含め、よろしくお願い致します！！（*^____^*）

